

授業概要

交通事故と言うと、自動車事故を思い浮かべる人は多いであろう。実際には、自動車事故だけではなく、飛行機の墜落事故や列車の衝突事故など多数の死傷者を出す事故もある。「交通心理学」では、日常において出会う可能性の多い自動車を中心として事故発生要因を考察し、事故を防ぐ要因について情報を提供する。歩行者や運転者への教育にはどのようなものがあるかも検討を行っていく。

授業計画

第1回	交通心理学とは何か
第2回	安全運転に寄与するもの—交通事故の要因
第3回	交通事故の変遷
第4回	事故発生要因①環境要因①自動車の性能
第5回	事故発生要因②環境要因②安全教育
第6回	事故発生要因③人的要因①性格の要因
第7回	事故発生要因④人的要因②刺激欲求（センセーション・シーキング）
第8回	事故の発生要因⑤人的要因③ハザード知覚
第9回	交通参加者のリスク要因①年齢要因
第10回	交通参加者のリスク要因②初心運転者と高齢ドライバー
第11回	交通参加者のリスク要因③うっかりミス
第12回	事故危険要因をまとめる
第13回	歩行者教育-歩行者も運転者も危険にしないために
第14回	運転者教育-運転行動とは何か
第15回	交通事故を安全に導くために心理学の役割を考える
第16回	テスト

到達目標

安全に自動車を運転するということはどのようなことか理解してもらいたい。安全運転をするためには運転者だけではなく、歩行者の協力も必要であることを理解してもらいたい。

履修上の注意

積極的な意見、質問を歓迎する。ただし、私語は厳禁。

予習・復習

資料とテキストを付け合わせて確認し、復習をしてもらいたい。

評価方法

授業の参加性（60%）とテスト結果（40%）をもとに評価する。

テキスト

毎回、A4の資料1、2枚程度を授業テキストとして配布する。復習がしっかりできるように授業テキストは構成する。